

法学概論

Introduction to Legal Studies

NAGAI Akihiro
永井 紹裕

科目ナンバリング：DIB-2-441-12

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目



■授業の目的及び到達目標

本講義では、日本の法制度について概観し、法的思考方法に触れることを目的とする。

具体的な事例をもとに、法的思考がどのようなものであるかに触れ、実際の問題に対して法的思考からどのような解決策を提示されているかを理解できること、様々な問題について、法的思考からどのような解決をすべきか、あるべき解決策について自身の考えを述べることをできるようになること、を目標とする。

■授業計画

- 1 法とは何か・法学とはどのような学問か
 - ・法が社会においてどのように機能しているか
 - ・法解釈とはどのようなものか
- 2 犯罪と刑罰①
 - ・どのような行為が処罰の対象になっているのか
 - ・そもそもなぜ処罰が必要なのか
- 3 犯罪と刑罰②
 - ・人を処罰するために必要な手続の概要（刑事手続）
 - ・刑事手続の諸原則
- 4 刑事責任と民事責任
 - ・不法行為責任と刑事責任の違い
 - ・不法行為責任の成立要件
- 5 所有や契約について
 - ・私人間の関係を規律する民法とは
 - ・物権と債権
 - ・契約とは何か
- 6 雇用についての法
 - ・労働と契約
 - ・労働法とはどのようなものか
 - ・労働者の保護とは
- 7 日本国憲法の成り立ちと基本原理
 - ・日本国憲法はどのように成立したのか
 - ・日本国憲法の基本原理とは
 - ・大日本帝国憲法と日本国憲法
- 8 日本国憲法における権利保障①
 - ・包括的人権とは
 - ・新しい人権とは
 - ・人権享有主体性
- 9 日本国憲法における権利保障②
 - ・14条の「法の下での平等」とは
 - ・家族関係と平等
 - ・選挙と平等
 - ・平等に関する近時の問題について
- 10 日本国憲法における権利保障③
 - ・自由権とは
 - ・精神的自由、経済活動の自由、人身の自由
- 11 日本国憲法における権利保障④
 - ・社会権とは
 - ・生存権、教育を受ける権利、労働基本権
- 12 日本国憲法における権力分立
 - ・権利保障と権力分立
 - ・立法権、行政権、司法権
- 13 学期試験およびまとめ
 - ・学期試験の実施
 - ・これまでのまとめ
 - ・試験と授業の内容に関するフィードバック（試験解説等）

■授業の方法

配付するレジュメをもとに授業を進める。受講生には授業で扱う条文を適宜参照しながら、授業を聞くことを求める。本講義では、なるべく身近な問題をもとに、とかく抽象的な議論になりやすい法的思考がどのように生かされるかについてなるべく平易に説明する。

■予習・復習

毎回授業の最後に次回扱う事柄を説明するので、予習として教科書の該当箇所を読んだうえでわからない用語などを調べてから授業に臨むようにしてください（合わせて2時間程度）。授業後も、復習としてわからない単語などは自身で調べ、教科書の該当箇所やレジュメを読み理解を定着させてください。内容についてわからない場合は教員に気軽に質問してください。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

授業内で実施するコメントペーパーの内容（30%）、期末試験（70%）で評価する。なお期末試験は、授業で扱った内容について問う、選択問題や正誤問題、論述問題などを出題する。

■教科書・参考書

・教科書

池田真朗編『プレステップ法学 第6版』（弘文堂、2025年）

・参考書
 宍戸常寿・石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021年）
 江藤祥平ほか『大学生生活と法学』（有斐閣、2022年）

その他の参考書については適宜紹介する。